

第一貨物のDTホールディングス

タイで冷凍車ボディ製造

ビューテックと合弁、月産100台へ

第一貨物を傘下に持つディー・ティー・ホールディングス(武藤幸規社長、東京都江東区東雲、以下DTHD)はビューテック(福田太郎社長、愛知県豊田市)とタイで合弁会社を設立し、同国で冷凍車のトラックボディ製造・販売を開始する。新合弁社長には、日本、中国で長年にわたり温度管理物流に携わった北野隆志氏(写真)が就任した。2015年2月に生産設備を導入し、4月から製造開始予定。18年には月産100台を目指す。将来的には災害支援車、検診車、救急車などの特殊車両の製造・販売も視野に入れている。

合弁社長にニチレイ ロジ出身の北野氏

新合弁会社「Japan Body Manufacturing Co., Ltd.」(JBM)は10月末の設立。資本金1億5000万円(約5億4000万円)で、出資比率はDTHD80%、ビューテック20%。バンコク近郊サムットプラカン県バンブー工業団地内に5000平方メートル規模のトラック架装工場を立ち上げ



JBM社長に就任した北野氏は、1978年のニチレイ入社以来、物流関連部門一筋で歩み、中国現地法人上海鮮冷储运や国内運送子会社NKトランスの社長も歴任。ニチレイを離れた後、第一貨物の中国法人の経営合理化にも関与した。北野氏は本紙に対して「日本、中国で長年物流に携わってきた経験を生かし、単なる車両メーカーとは違った視点で顧客にアプローチしていきたい」と語った。タイでは所得水準の上昇などから冷凍食品の販売が伸びるなど食生活が変化しており今後、冷凍車両の需

要も増加することが予想される。ボディ製造に当たっては、最新の生産設備を導入し、部品の製作精度を高め、品質のムラを無くす

ことで高品質・高気密ボディを実現する。また、北海道の厳しい自然環境下で耐久性の高い特装車両ボディを長年製造してきた札幌ボディ(堀田彰社長、札幌市西区発寒)と業務提携することで、タイの悪路に負けない、長年使用可能なボディを生産する考えだ。冷凍機は最先端の電気式を採用する予定。電気式冷凍機は自動車部品組み付けで長年の実績がある、ビューテックのタイ現地法人Vuteq Asiaが日本の冷凍機メーカーの技術支援を受け製造する。部品は可能な限り自社で製作することで素早いメンテナンス対応が可能になるとしている。